新幹線特急券

浜　松 → 広　島

8月25日 8:31発 9:01着 【名古屋 乗換】 9:10発 11:27着
ひかり 501号 C04 | のぞみ 11号 C16
13号車 8番E席 禁 | 13号車 3番E席 禁

¥6,460　　M05720

2025.-8.-6浜松駅MR003(3-タ)　30941-02

乗車券（ゆき）（幹）

浜　松 → 広島市内

経由:浜松・新幹線・広島
8月25日から 9月 3日まで有効　　¥＊＊＊＊
券面表示の都区市内各駅下車前途無効

2025.-7.29　浜松駅MR001発行　復割
60552-13 (3-タ)　C62

新幹線特急券

姫　路 → 浜　松

8月26日 (14:11発) (16:13着)　C14
ひかり 512号　11号車 6番E席 禁
¥4,500

2025.-8.-6浜松駅MR003(3-タ)　00945-01

新幹線特急券

広　島 → 姫　路

8月25日 (16:03発) (16:58着)　C53
のぞみ 40号　11号車 4番D席 禁
¥4,260

M03739

2025.-8.-6浜松駅MR003(3-タ)　40942-01

乗車券（かえり）（幹）

広島市内 → 浜　松

経由:広島・新幹線・浜松
8月25日から 9月 3日まで有効　¥17,620
券面表示の都区市内各駅下車前途無効

2025.-7.29　浜松駅MR001発行　復割
60552-16 (3-タ)　C62

乗車券（かえり）（幹）

広島市内 → 浜松

経由：広島・新幹線・浜松
8月25日から 9月 3日まで有効 ¥17,620
券面表示の都区市内各駅下車前途無効

2025.-7.29 浜松駅MR001発行 復割
60552-15 (3-タ) C62

乗車券（かえり）（幹）

広島市内 → 浜松

経由：広島・新幹線・浜松
8月25日から 9月 3日まで有効 ¥17,620
券面表示の都区市内各駅下車前途無効

2025.-7.29 浜松駅MR001発行 復割
60552-19 (3-タ) C62

乗車券（かえり）（幹）

広島市内 → 浜松

経由：広島・新幹線・浜松
8月25日から 9月 3日まで有効 ¥17,620
券面表示の都区市内各駅下車前途無効

2025.-7.29 浜松駅MR001発行 復割
60552-16 (3-タ) C62

乗車券（かえり）（幹）

広島市内 → 浜松

経由：広島・新幹線・浜松
8月25日から 9月 3日まで有効 ¥17,620
券面表示の都区市内各駅下車前途無効

2025.-7.29 浜松駅MR001発行 復割
60552-20 (3-タ) C62

乗車券（かえり）（幹）

広島市内 → 浜松

経由：広島・新幹線・浜松
8月25日から 9月 3日まで有効 ¥17,620
券面表示の都区市内各駅下車前途無効

25.-7.29 浜松駅MR001発行 復割
60552-17 (3-タ) C62

乗車券（かえり）（幹）

広島市内 → 浜松

経由：広島・新幹線・浜松
8月25日から 9月 3日まで有効 ¥17,620
券面表示の都区市内各駅下車前途無効

2025.-7.29 浜松駅MR001発行 復割
60552-18 (3-タ) C62

会派視察Ｂ班タクシー代

	区　間	台　数	片　道	金　額
③	8月25日 広島駅～広島平和記念資料館	2	1,390	2,780
④	8月25日 広島平和記念資料館～広島駅	2	1,390	2,780
			合　計	5,560

領　収　書
No. 5174
日付　2025年08月25日
車番　000217　000
メータ運賃　¥1,390円
合計　¥1,390円
上記の通り領収致しました

消費税率　10%
毎度ご利用ありがとうございます。
またのご利用お待ち申し上げます。

株式会社カープタクシー
広島市南区大州1丁目9－5
TEL 082-285-8000
登録番号
T8240002003671

領　収　書
No. 1072
日付　2025年08月25日
車番　000711　000
メータ運賃　¥1,390-
合計　¥1,390-
上記の通り領収致しました

消費税率　10%
毎度ご乗車ありがとうございます
またのご利用お待ち申し上げます
もみじ交通
広島市中区江波本町4－17
TEL (082) 294-2007
登録番号　T5-2400-0101-7956

領収書
2025年08月25日 -011
メーター運賃　¥1,390円
合計　¥1,390円
(税率10%)
登録番号 T5240002001397
現金支払　¥1,390円
車輌番号 0315
毎度ご乗車ありがとうございます。

一二三タクシー㈲
広島市中区光南3-1-9
☎ 082-241-5175

領　収　書
No. 1751
日付　2025年08月25日
車番　000500　0000
基本運賃　¥1,390円
合計　¥1,390円
上記の様に領収致しました
消費税率　10%

広島都市個人タクシー協同組合
ちひろＴＡＸＩ
広島市中区白島九軒町17－4
TEL　082－221－1107
登録番号
T7810349736560

自由民主党浜松 B班視察 日程表

◆視察日程　令和７年８月２５日（月）、２６日（火）
◆視 察 市　広島県広島市（広島平和記念資料館）
　　兵庫県姫路市（姫路市役所）
◆視察議員　柳川樹一郎 議員、倉田 清一 議員、戸田 誠 議員、加茂俊武 議員、
　　辻村 公子 議員 藤田典良 議員（議員６名）
【 ８月２５日（月） ８：１５ 浜松駅新幹線改札口前 集合 】

８月２５日（月）	【行程】 ■浜松駅　8:31（出発）＝＝＝＝＝ 9：01（到着）名古屋駅 新幹線（ひかり 501 号） ※（乗換⑯番線→⑰番線） ■名古屋駅 9:10（出発）＝＝＝＝＝11：27（到着）広島駅 新幹線（のぞみ 11 号） 昼食（広島駅周辺 11:30～12:45） タクシー（3.5 km）約 14 分 ■広島駅　13:00（出発）――― 13：20（到着）広島平和記念資料館 広島平和記念資料館 視察 13:30～15:00 調査項目 ◆戦後 80 年の節目に学ぶ 恒久平和の理念と地方自治体の平和行政 「地方自治体としての平和事業の在り方、次世代への継承について。」 タクシー（3.5 km）約 14 分 ■広島平和記念資料館 15:15（出発）・・・・15:35（到着）広島駅 新幹線（のぞみ 40 号） ■広島駅　16：03（出発）＝＝＝＝16:58（到着）姫路駅 徒歩 3 分 17:15 山陽百貨店西館３階　駅前市役所 駅前市役所 視察 17:15～17:20 調査項目 ◆駅ビルでの市民窓口について 徒歩　6 分(482m)・・・東横イン姫路駅新幹線北口 （宿泊）東横イン姫路駅新幹線北口 （兵庫県姫路市西駅前町 52-2 Tel079-226-1045）	【広島平和記念資料館】 〒730-0811 広島市中区中島町 1-2 広島平和記念 082-241-5428（記念館） （担当）[redacted]さん （昼食） 広島駅周辺 【姫路市役所】 兵庫県姫路市安田４丁目１番地 議会事務局調査課 079-221-2034（担当） 井垣（いがき）さん （夕食） 「良寛：りょうかん」 姫路市十二所前町 11
８月２６日（火）	【行程】 ■東横イン　9:15（出発）――― 9:30（到着）姫路市役所 タクシー（1.9 km）約 12 分 姫路市役所 視察 10:00～12:00 調査項目 ◆中学校部活動の地域展開 『姫カツ』の取組及び進捗状況について タクシー（1.4 km）約 12 分 ■姫路市役所 12:00（出発）―――12:15（到着）姫路駅 昼食（姫路駅周辺 12:30～13:45） （ひかり 512 号） ■姫路駅 14：11（出発）＝＝＝＝16：13（到着）浜松駅 お疲れさまでした。	【姫路市役所】 兵庫県姫路市安田４丁目１番地 議会事務局調査課 079-221-2034（担当） 井垣（いがき）さん 〈昼食〉 姫路駅付近

（様式８）

令和 ７ 年 ７ 月１７日

会派名　浜松市議会 自由民主党浜松
代表者　会 長　平野　岳子　様

会派名　浜松市議会 自由民主党浜松
氏　名　視察Ｂ班幹事　藤田　典良[redacted]

出　張　届

下記により、政務活動のため、出張することになりましたので届け出ます。

記

1　出張者

柳川樹一郎 議員　　高林　修 議員　　戸田　誠 議員
倉田　清一 議員　　加茂　俊武 議員　　辻村　公子 議員
藤田　典良 議員

（計７名）

2　期間及び出張先

令和 ７ 年 ８ 月２５日（月）～ ８ 月２６日（火）　２日間

広島県広島市　・　兵庫県姫路市

3　目的

広 島 市　：　広島平和記念資料館 視察
・戦後 80 年の節目に学ぶ恒久平和の理念と地方自治体の平和行政について
姫 路 市　：　・駅ビルでの市民窓口について（山陽百貨店内「姫路市役所」視察）
・中学校部活動の地域展開『姫カツ』の取組及び進捗状況について

視察依頼書送付願

令和7年7月 17 日

浜松市議会議長　高 林　　修 様

会 派 名　浜松市議会 自由民主党浜松
代表者氏名　会長　平野　岳子[redacted]

上記のとおり、所属議員が政務活動のため、出張することになりましたので、視察先あての視察依頼書の送付をお願いします。

（様式11）

（A0702）
A0801

令和 6 年 8 月29日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和 7 年 8 月 25 日（月）～ 8 月 26 日（火）　2日間
出　張　先	広島県広島市　・　兵庫県姫路市
出張の理由	会派行政視察（B班） 【広島市】広島平和記念資料館　視察 ・戦後80年の節目に学ぶ恒久平和の理念と地方自治体の平和行政について 【姫路市】 ・8/25　姫路駅前市役所（山陽百貨店内窓口について） ・8/26　中学校部活動の地域展開『姫カツ』の取組及び進捗状況について
出張者 氏名印	柳川樹一郎 [redacted]　戸田 誠 [redacted]　倉田 清一 [redacted] 加茂 俊武 [redacted]　辻村 公子 [redacted]　藤田 典良 [redacted] （計 6 名）

（出張の顛末）

別紙　報告書の通り

（備考）

視察報告書

戸田 誠

視察日　令和７年８月２５日

視察議員　柳川樹一郎、倉田清一、加茂俊武、辻村公子、藤田典良、戸田誠

視察場所　広島市（広島平和記念資料館）

視察項目　戦後８０年の節目に学ぶ恒久平和の理念と地方自治体の平和行政

視察目的　地方自治体としての平和事業の在り方、次世代への継承について

説明　広島平和記念公園内にある広島平和記念資料館を戦後８０年にあたり視察した。被爆の実相の継承、平和意識の醸成、核兵器廃絶の推進の理念による展示がされていた。

所感　当日は夏の暑さが厳しい日であり、このことが展示をみて戦争の悲惨さ原爆の恐ろしさ当時の広島の悲惨な状況を私にさらに強く印象づけた。来館者の多くが外国人の方々であり、一人一人が展示の前で説明版を読み展示物を悔いる様に観ていた。
この方々が自国へ戻り原爆の悲惨さを広めて頂き原子爆弾がこの世から無くなる活動を広めてもらえることを強く感じた。また、戦争が無益なこと平和が如何に尊いかといった。基本中の基本を望んでいただいたいと思いたい。最後に平和の意識を広めるためこの資料館が広く認識される物であり、継続して平和の中心であって欲しいと願うものである。

視察場所　姫路市駅前市役所（山陽百貨店西館３階）

視察項目　駅ビルでの市民窓口について

視察目的　住民サービスの拠点について

説明　JR姫路駅ビル山陽百貨店内にある姫路市駅役所を視察した。
駅直結でアクセスが良く住民票を始め印鑑登録証明書などの交付業務及びパスポートセンターなどが併設されていた。

所感　平日夜間や土日祝日にも開庁していることは市民にとっては便利であると感じた。浜松市もコンビニでの手続きなどで対応しているが人員対応していることは、相談が可能となり市民は安心して手続きができることが非常に良いことであると感じた。詳しい説明を受けることが出来なかったので費用について聞くことが出来なかったのが残念だった。

視察日　令和７年８月２６日

視察議員　柳川樹一郎、倉田清一、加茂俊武、辻村公子、藤田典良、戸田誠

視察場所　姫路市

視察項目　中学校部活動の地域展開『姫カツ』の取組及び進捗状況について

視察目的　部活動の地域展開についての参考にする

説明　姫路市は部活動の地域展開を運営事務局を市直営として、教員である指導主事や行政職員など6名で構成され、会費の徴収や指導者謝金の支払いなどの運営事務を担当して行い、将来的には完全に地域へ移行して自主的に認定クラブが運営していくことを目指す。その移行の目的・理念は（中学校部活動を単に地域に移行するのではなく、既存の形にとらわれず新たな形を創る【部活動観の大転換】を目指すとして、その考え方や手法を広く知らしめるために事業の総称を「姫カツ」として推進をしている。また、民間出身の女性教育長が動画を含め事業推進を積極的に進めている。

所感　部活動の地域移行の課題に対して、どの都市も工夫しながら推進していることが理解できたが姫路市は早期から対策として実証実験を行い課題の抽出を行い進めていることが参考になった、浜松市は今年度からであることを考えると移行できるのかと思ってしまう。
早期対応の姫路市でも、課題が多くあり移行の難しさを説明して頂いた、しかも、姫路市は事務局機能を市が担う体制をつくり、しかも6名体制を組んでいることからも浜松市の地域移行への体制は貧弱であると考える。今回の視察を市に説明してしっかりと体制を作ってもらい市民に戸惑わないように地域移行を行ってもらうよう要請していかなければいけないと感じた。

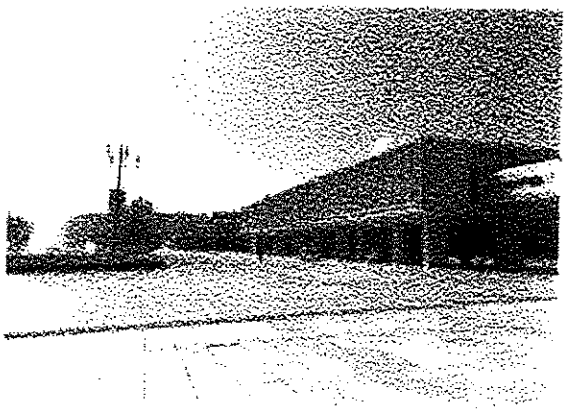
浜松市議会　自由民主党浜松Ｂ班視察報告書

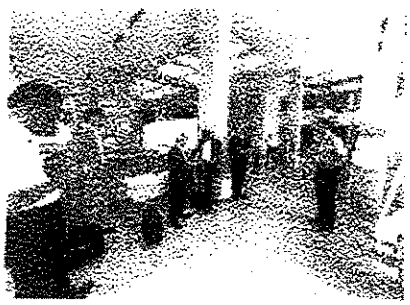
令和７年８月20日
倉　田　清　一

視察日程：令和７年８月２５日(月)～８月２６日(木)
視察議員：柳川樹一郎、戸田　誠、加茂俊武、辻村公子、藤田典良、倉田清一
視察地　：① 広島市：広島平和記念公園
② 姫路市：姫路市駅前市役所(山陽百貨店西館３階)
③ 姫路市：姫路市教育委員会学校教育部健康教育課
視察内容：① 地方自治体としての平和事業の在り方と次世代への継承について
② 駅ビルでの市民窓口について
③ 中学校部活動の地域展開「姫カツ」の取組及び進捗状況について

（１日目）

・視察日　：令和７年８月２５日(月)
・視察場所：広島平和記念公園
・視察内容：地方自治体としての平和事業の在り方と次世代への継承について
戦後８０周年をを迎えるにあたり、広島平和記念資料館を視察した。
資料館は平和公園内に位置し、核兵器廃絶の推進と平和意識の醸成、非被爆の実相の継承の理念の下、展示構成となっている。また、本館と東館から構成、本館は被爆者の遺品や写真・パネルで原爆の悲惨さを強く且つ直接的に伝える展示がされていた。
東館では被爆前後の広島市の歩みや復興、核兵器の危険性を広く訴える展示となっている。また、パノラマ模型や資料での解説、オバマ元米国大統領の祈りの折鶴の展示など、国際的視点も取り組まれ、リニューアル以降はグロテスクな展示は抑えつつ、ＣＧやタッチパネルなどデジタル技術も取り入れられている。
展示は亡くなられた方の気持ちやご家族の思いが伝わる構成で、被爆の悲惨さが充分伝わる内容である。また、外国人観光客も大変多いが会場は静寂に包まれ、平和の尊さが国際的にも共有されていることを感じた。
・所　　感：
現在もロシアとウクライナ、イスラエルとハマス・イランなど、世界各地で戦争が続いており、唯一の被爆国である日本が果たす役割は小さくない。
核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さを後世に伝えていかなければならないと強く感じた。





・視察日　：令和７年８月２５日(月)
・視察場所：姫路市駅前市役所(山陽百貨店西館３階)
・視察内容：駅ビルでの市民窓口について
・説　　明：
(1) 視察概要
姫路市駅前市役所を視察し、駅前立地の市民窓口の役割や利便性について視察した。特に、通勤・通学、買い物の途中での利便性や休日・夜間などのサービスの展開、市民窓口の効率的な運営方法に着目した。
(2) 施設・窓口の特徴
・JR 姫路駅北駅前ビル(山陽百貨店) ３階に設置され、駅直結でアクセス性がとても良い。
・通常の市民サービス窓口に加え、パスポートセンターも併設されている。
・平日夜間や休日も開所し、平日昼間に来庁出来ない市民も利用しやすい。
・デジタル機器や番号発券機を購入し、効率的な窓口運営を実現している。
・多言語対応の案内も整備され、外国人も利用しやすい体制となっている。
・所　　感：
視察は 17 時を過ぎていたが、窓口には手続きを行う市民の姿があった。夜間でも市民の利便性が機能していることを確認するとともに、駅前の立地で通勤通学や買い物の途中で利用でき、若者や女性、働く世代が利用を促進していると感じた。
本市においても過去に「フォルテ」に市民サービスセンターがあった経緯があり、駐車場も少なく不便な「浜松市くらしのセンター」も含めた「浜松市駅前市役所」も今後検討をしていきたい。



（２日目）
・視 察 日：令和７年８月２６日(火)
・視察場所：姫路市役所(姫路市教育委員会事務局 学校教育部 健康教育課)
・視察内容：中学校部活動の地域展開(姫カツ)の取組及び進捗状況について
・説　　明：
(1)「姫路市の推進計画」について
・令和８年９月から「休日の中学校部活動の地域展開」を開始する予定
・改革実行期は令和８年９月から令和１０年９月までと設定され、地域主体の運営移行や指導体制の整備を推進
・既存の部活動の形にとらわれず新たな形を創る「部活動観の大転換」を目指す。学校や教員、保護者、地域が多様な価値観や考え方に応えられる環境整備を重視する。

(2) 地域展開に向けた取組み(姫カツ)について

・運営体制

姫路市は学校部活動の地域展開を円滑に進めるため、市直営の運営事務局を設置。教員である指導主事や行政職員など6名で構成、会費の徴収や指導者への謝礼の支払いなどの運営事務を担当。将来的には、運営主体を地域の認定クラブに移行し、自治的に運営可能な体制を目指す。

・活動形態

平　日：学校部活動として実施(部活動移行型)

休　日：姫カツクラブによる合同練習型、学校の枠を超えた交流や大会参加を実施。

大会出場：姫カツチームとして、地域クラブ単位で県大会等へ出場。

(3) 会費や費用負担

・運営に関する会費：年会費3,000円、月謝3,000円(年間39,000円)で、活動に必要な個人の用具費や大会参加費は別途

・費用負担軽減策　：中学校施設や備品の活用、困窮世帯への支援も検討。

(4) 課題への対応

・参加者の移動や送迎負担の軽減：活動場所や募集エリアの調整、多くの団体や指導者の参画。

・選択肢の多様性の確保：姫カツクラブと姫カツ連携活動の展開。

・指導者の質の保障：団体や指導者の認定要件や研修制度を整備。

・学校教育活動の継承：希望する教職員の兼業・兼職の許可。

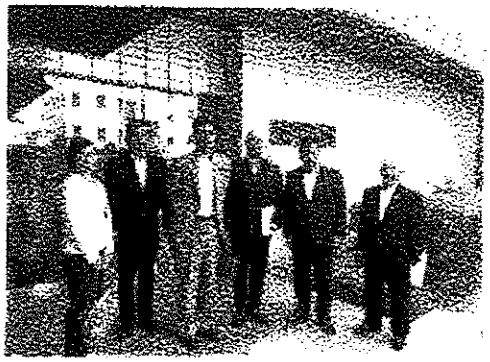
・所　感：

姫路市では教育長が民間出身(元アナウンサー)で、取組みや仕組みをSNSを活用するなど、市民への周知を重視している。実証事業も令和5年から実施され、地域展開に向け、早くから取り組んでおり、本市の取組みは他都市と比較しても遅れていると言わざるを得ない。

また、参加者や家庭の負担軽減、指導者の質の確保、学校地域間の連携体制の構築など課題もあるが、具体的な課題も示されている。

姫路市の姫カツは、部活動の教育的意義を継承しつつ、地域と学校が連携して持続可能な運営体制を整備する先進的事例であり、大変参考となるものであった。





加我俊武

自由民主党浜松　B班視察　報告書

視察日程　令和7年8月25日(月)、26日(火)
視 察 先　広島市:広島平和記念資料館
　　姫路市:姫路市役所

■視 察 日　令和7年8月25日(月)
■視 察 先　広島平和記念資料館(広島記念館:運営企画課長)
■視察項目　戦後80年の節目に学ぶ恒久平和の理念と地方自治体の平和行政
　　地方自治体としての平和事業の在り方、次世代への継承について。

「視察概要」

戦後 80 周年を迎えるにあたり、広島平和記念資料館を視察した。資料館は広島平和記念公園内に位置し、核兵器廃絶の推進・平和意識の醸成・被爆の実相の継承といった理念のもと、展示構成が設計されている。

訪問当日は、多くの外国人が訪れていた。また、国籍も多岐にわたっていた。原爆資料館の国際的認知度について改めて感心させられた。多くの外国人や子ども、家族連れもいたが、会場は、静寂に包まれており、平和とは、尊いものであり、国際的にも、共有されていることを強く感じた。

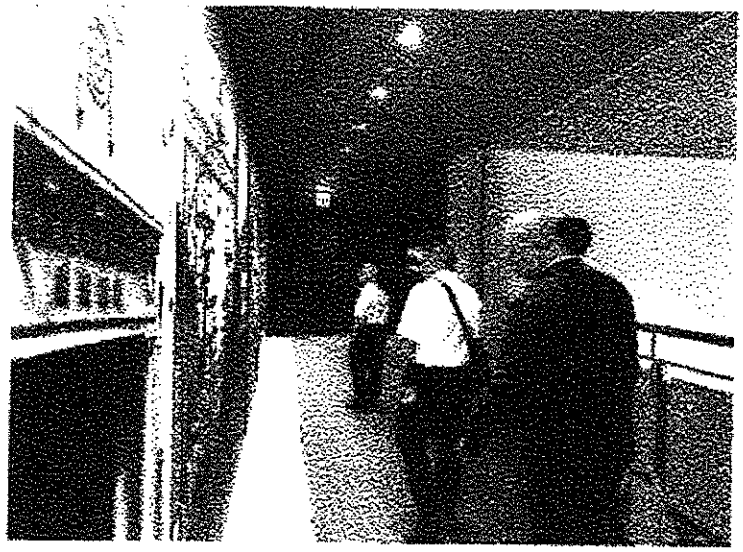


「所感」

平和教育の継続と発展は、大変、重要であると感じた。語り部の方々が減少しているのは、どこの地域でも同じである。であるからこそ、若い世代に対し、歴史の事実を正しく伝えていくことが大切であり、平和の尊さを考える機会を設けることが求められている。

本市においても、「語り部の会」の活動が継承の課題に直面しており、様々な努力をして頂いている。浜松復興記念館は、展示内容や展示方法について再考を検討する時期なのかもしれない。また、多様性がさけばれるなか、本市の外国人の方にも理解してもらえるよう、デジタル技術の活用や多言語対応、参加体験型の展示などを取り入れていくことも必要である。

平和に関する事業については、教育においても、人権問題においても、大切であり、単なる行事とならないよう、教育現場との連携、市民団体への活動支援を組み合わせるなどして、継続性のある仕組みづくりが重要であると感じた。



■視 察 日　令和7年8月25日(月)
■視 察 先　視察先:姫路市駅前市役所(山陽百貨店西館3階)
■視察項目　駅ビルでの市民窓口について

「視察概要」
　山陽百貨店内にあり、普通の店舗と変わらぬ雰囲気で、少し驚愕した。
　施設・窓口の特徴としては、JR 姫路駅北駅前ビル「山陽百貨店」3階に設置され、駅直結である。
住民票、印鑑登録証明書、戸籍証明書などの交付業務、パスポートセンターなども併設されている。平日夜間や土日祝日も開庁し、平日に来庁できない市民にも対応している。デジタル機器や番号発券機が導入されいる。多言語対応の案内も整備されている。



「所感」
山陽百貨店内にあり、普通の店舗と変わらぬ雰囲気であり、驚愕した。

土日祝日に開庁しているところに大きな意味を持つと感じた。視察は、夕方の17時過ぎであったが、窓口に手続きを行う市民の姿があった。駅前立地で通勤・通学や買い物のついでに立ち寄れるという、利便性は、浜松市の市民サービスのあり方において、大いに参考となった

「市民の生活の延長戦に行政サービスがある」ついでにという状態を作り出し、市民満足度の向上と本庁舎の業務のあり方を考える事例となった。

■視 察 日　令和7年8月26日(火)
■視 察 先　視察先:姫路市役所(姫路市教育委員会事務局　学校教育部　健康教育課)
■視察項目　中学校部活動の地域展開『姫カツ』の取組及び進捗状況について

「視察概要」

(1)姫路市の推進計画について

・中学校36校
・生徒数13,428人
・部活数　418部　運動部308人、文化部110部
・加入率　81.1%

・改革実行期は令和8年9月～令和10年9月までと設定され、地域主体の運営移行や指導体制の整備を推進。
・既存の部活動の形にとらわれず、新たな形を創る「部活動観の大転換」を目指す。学校・教職員

(2)展開に向けた取り組み(姫カツ)

・運営体制

姫路市は、学校部活動の地域展開を円滑に進めるため、市直営として運営事務局を設置。教員である指導主事や行政職員など6名で構成され、会費の徴収や指導者謝金の支払いなどの運営事務を担当。将来的には、運営主体を地域の認定クラブに移行し、自治的に運営可能な体制を目指す。

・活動形態

平　日:学校部活動として実施(部活動移行型)。
休　日:姫カツクラブによる合同練習型。学校の枠を越えた交流や大会参加を実施。
大会出場:姫カツチームとして、地域クラブ単位で県大会等に参加。

(3)会費・費用負担

運営に関する会費は年会費3,000円、月謝3,000円(年間39,000円)で、活動に必要な個人　の用具費や大会参加費などは別途。

費用負担軽減策として、中学校施設や備品の活用、困窮世帯への支援も検討。

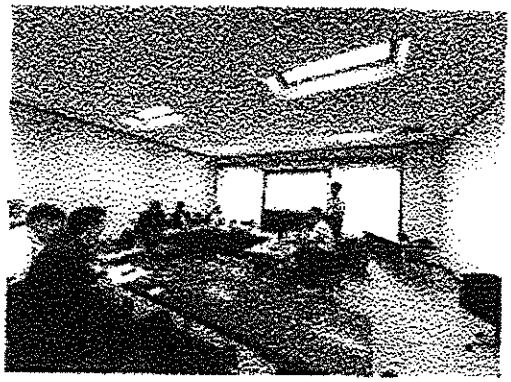
(4)課題への対応

・参加者の移動・送迎負担の軽減→活動場所や募集エリアの調整、多くの団体・指導者の参画。

・選択肢の多様性の確保→「姫カツクラブ」と「姫カツ連携活動」の展開。

・指導者の質の保証→団体・指導者の認定要件や研修制度を整備。
・学校教育活動の継承→希望する教職員が兼職兼業で参画し、教育的意義を継承しつつ新たな価値を創出。

【所感】



姫路市の「既存の形に捉われず、新たな形を創る。部活動の教育的意義を継承しつつも、社会全体の部活動観を変える」という考え方についてはおおいに賛同できるものであった。

「やってみたい」を実現というキャッチフレーズをみて、わかるように、生徒の視点を大切にしていることが伺える。そして、広報活動にも積極的に取り組んでいる。教育長が民間出身(元 TBS アナウンサー)ということをで、取り組みや仕組みを YouTube 動画で公開している。

また早い時期から実証実験をしていることも注目されるところである。令和6年度には、水泳、体操、野球、剣道、吹奏楽、卓球、柔道において実施した。早めに実証実験することで課題のあぶり出しになる。また、広報活動にもなっている。

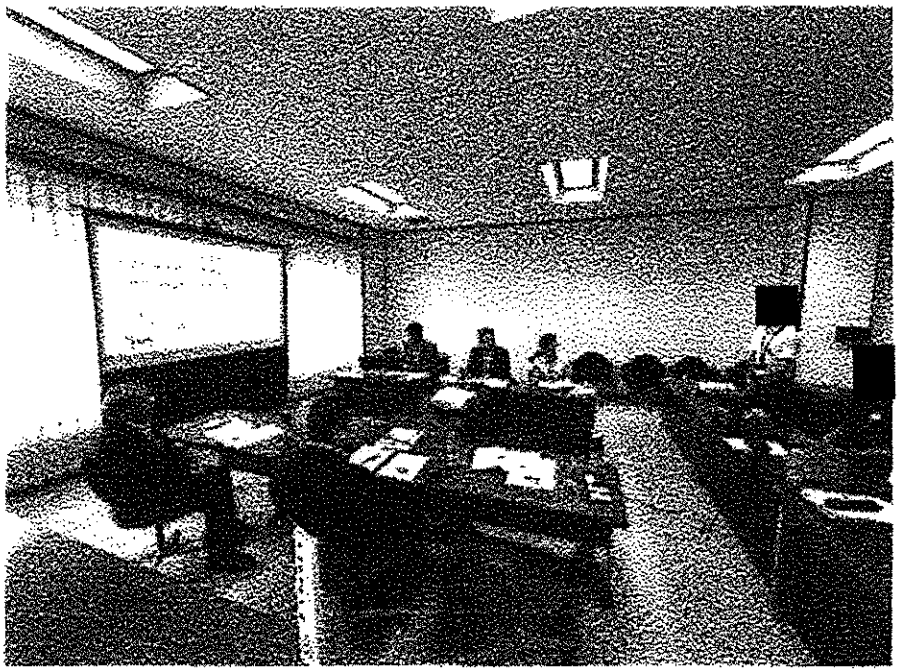
既に、第一次募集もしており、教員が立ち上げた団体も含め70団体が集まっている。

浜松市においても実証事業を予定しているが、比較すると、かなり遅れをとっており、危機感を覚えた。

また、運営方法についても姫路市は直営を考えており、全体の統括を事務局がおこなう。事務局が、指導者謝金や運営事務諸経費(保険料など)を管理し、交通通信、登録料、施設使用料、備品消耗品は、各団体の裁量による。

現在、浜松市では教育委員会指導課が兼務で対応しているため、専任チーム・部署を早急に設置し、本腰を入れた取り組みが必要と感じた。来年度からの地域展開に向け、ガイドライン案作成や市議会常任委員会での説明は進んでいるが、実証実験における課題の把握が出来ておらず、このペースでは厳しいと言わざるをえない。

部活動のあり方をどのように変化させ、教職員の負担軽減と子供達のやりがいや成長を両立させていくのかを考えることが重要である。そして、常に、子ども達の視点を忘れないことが大前提とすべきである。



視察報告書

1　視察日程・視察先

令和７年８月 25 日から 26 日の２日間、以下の施設・機関を視察しました。

・広島市：広島平和記念資料館

・姫路市：駅ビル市民窓口、姫路市議会、中学校部活動地域展開（姫カツ）関連

2　視察の目的と概要

今年は戦後 80 年の節目の年です。浜松市も昭和 20 年６月 18 日に B29 の空襲を受け、市街地が焼失し多くの犠牲者を出しました。近年は戦争体験者が減少し、遺族会の活動も縮小する中で、戦争の記憶をいかに後世へ継承していくかが課題となっています。

こうした背景を踏まえ、広島市における戦災の記録や平和への取り組みを学び、浜松市の今後の施策に活かすことを目的に、広島平和記念資料館を視察しました。

3　視察内容と所感

（1）広島平和記念資料館

資料館はリニューアルされ、展示内容も一新されていました。来館者は外国人や子ども連れも多く、広島が世界的に注目されていることを実感しました。展示では、被爆当時の惨状や放射線被害の実態を伝える写真・遺品が紹介され、改めて戦争の悲惨さと記憶の継承の重要性を痛感しました。

現在も世界各地で戦争が続き、核兵器も依然として減少していない現状を考えると、平和の尊さを発信し続けることの意義を強く感じました。

（2）姫路市駅ビル市民窓口

駅ビル３階に設置された市民窓口を見学しました。利便性の観点からは、駅利用者の動線上に設置することが望ましいと考えられますが、設置経緯や利用状況についてはさらに確認が必要と感じました。

（3）姫路市の中学校部活動地域展開「姫カツ」

姫路市では、部活動の地域移行を進めるため「姫カツ推進協議会」を設立し、学校と地域が連携してクラブ活動の地域展開を進めています。

課題としては、以下の点が挙げられました。

・指導者の確保と質の保証

・学校と地域の連携体制構築

・教育的意義や役割の継承

・活動の多様性確保と地域格差の解消
・家庭の費用負担軽減や困窮世帯支援
・施設や備品の有効活用
・送迎負担の軽減

姫路市はモデル事業を展開しながら、課題解決を同時進行で進めています。浜松市でも早急にワーキンググループを設立し、具体的な課題解決に向けた取組を進める必要があると感じました。

4　まとめ所感

本視察を通じて、戦争の記憶継承の重要性、公共施設の利便性向上、そして部活動地域移行の具体的課題について多くの知見を得ました。今後の浜松市の施策検討において、大いに参考となるものです。

以上、報告いたします。

令和７年８月２８日　　柳　川　樹　一　郎

自由民主党浜松Ｂ班視察報告書

辻村　公子

視察日程　令和７年８月２５日（月）～２６日（火）

視察先　　広島平和記念資料館　　姫路市役所駅前窓口　姫路市役所

視察事項　・戦後８０周年の節目に学ぶ恒久平和の理念と地方自治体の平和行政

『地方自治体としての平和の事業の在り方、次世代への継承について』

・姫路駅前市役所の窓口の利用状況等

・姫路市部活動地域移行姫カツの取組状況

視察日	令和７年８月２５日（月）
視察地	広島平和記念資料館
	広島県

視察の顛末

2025年は、第二次世界大戦の終結から80年という節目の年であり、全国各地で「平和」と「記憶」を未来へつなぐ取り組みが展開された。

広島市では被爆80周年記念事業として、これまでも行ってきた「原爆死没者の慰霊と被爆者の援護」に、「平和文化の振興」を柱の一つに加えて、６つのテーマに沿って実施された。このような取り組みにおいては、戦争経験者や被爆者の高齢化が進展している現状を踏まえて、次世代の平和文化の担い手を育成する観点に立って、若い世代の主体的な取組や積極的な参画を促し、「ヒロシマの心」を次世代につないでいくとともに、国内外の年との連携の輪を広げていくことも重要である。あわせて、記念事業を含めた被爆８０周年の取り組

みとして、ロゴマーク等を活用した周知に努めるとともに、芸術文化活動やスポーツ活動を始めとした平和文化の振興に資する取り組みを、行政だけでなく市民や企業等も含めた全市民的なものとして展開していくため、これまでにも増して民間主体の取り組みへの支援を行った。

所　感

本市も戦没者追悼平和記念式が8月15日に毎年開催されている。全国各地では戦争を体験された方々が高齢となり、その労苦を語り継ぐことが厳しくなってきているため、本市では令和6年7月に戦禍の記憶を未来へと語りつぐことを目的として「かたりべの会浜松」のボランティア組織が発足し、活動をしていただいている。

私自身、修学旅行で平和記念資料館を訪れ、小学生ながら当時の展示に衝撃を受け、戦争の悲惨さを目の当たりにし当時の記憶が今でも残っている。ボランティアガイドさんとさまざまな話をする中で、記念資料館が2019年に3回目のリニューアルオープン、館内の展示もかなり変わったという。かたりべの高齢化に伴い、実際に当時の悲惨な写真や遺品を展示することで、来館者自身が自分の目で戦争の恐ろしさを感じてもらえるようにと変更したようだ。

世界中の人々が平和を願う中、今もなお戦争によって多くの命が失われていることを忘れてはならない。日本から世界に原爆の恐ろしさを広島平和記念会館から発信し、各地域にいらっしゃるかたりべの皆さんの貴重なお話を次世代へと受け継ぎ、また地域全体で継承活動を支えることで、今、平和であることは決してあたりまえでないという事を一人一人が考えなければならない。

視察日	令和７年８月25日（月）
視察地	姫路市役所駅前市民窓口 姫路市安田４丁目１番地

視察の顛末

姫路市の『駅前市民窓口（駅前市役所）』が平日・土日と10時から19時まで業務を行っている。（毎月第３土曜日は閉所）取り扱い業務の一例としては、住民票、戸籍証明書の発行や、マイナンバーカード関連手続き、各種証明書の申請・交付を行っているが、土日祝日のマイナンバーカードの手続きの受付は予約制となっている。

所　感

駅前という立地条件や、休日にしか手続きに行けない市民にとっては大変便利である。現在マイナンバーカードの普及により住民票や戸籍証明書はコンビニエンスストアでも発行ができるが、マイナンバーカードの更新手続きなどは窓口対応となるため休日にできると大変便利である。本市もマイナンバーカード更新の窓口は常に並んでいることが多い。

また年間を通して繁忙期などの利用人数などの状況も踏まえて、職員の配置やなども含め職員の働き方に負担が無ければ市民のためにとても有効であると感じた。

視察日	令和７年８月２６日（火）
視察地	姫路市役所
	部活動地域展開「姫カツ」の取り組み状況について

視察の顛末

「姫カツ」とは、2026年９月以降に姫路市で始まる、中学校の休日の部活に代わる新たな地域クラブ活動であり、姫路市と学校、関係団体が連携し、市内の競技団体などが主体となって運営している。

中学校のスポーツ・文化芸術活動の機会を確保し、多様なニーズにこたえることが目的である。現在の学校部活動が抱える課題を解決し、「スポーツ・文化芸術を通じた姫路の共有」を目指しており、教員の働き方の改革や地域における多世代交流、新たなコミュニティー創出にも貢献することも目指している。姫カツの活動形態としては、地域や競技の実情に合わせて主に３つの活動形態があり、全市やブロック単位で休日に合同練習を行う合同練習型と学校と地域が連携して部活動を地域クラブ活動に移行できる部活移行型、こちらは中体連主催の大会にも出場できる。また中学生向けの講座や教室を開設し、多様な形式の活動としての体験型もある。

指導は地域の指導者、（指導を希望する教職員を含む）が行い、姫路市教育委員会健康教育課が関わり、学校の枠を超えて子どもたちが活動できるように工夫されている。2025年度には水泳や体操、吹奏楽など数種目の分野で参加者の募集や実証実験が行われている。

所　感

本市では2023年５月に「休日の部活動の地域展開に向けた取り組み方針」を策定し、2026年９月から「はまクル」として部活動を地域クラブ活動へと段階的に移行することを勧めている。姫路市の「姫カツ」では人の動きを入れた広報動画により、部活動の地域展開の今後について非常に分かりやすい広報が出来ていた。また教育委員会が窓口になり幅広くスポーツの団体を委員にする

ことで、クラブチームとの連携もとれ進んだ活動が形となって表れていると感じた。本市においても協議会等行われているが、中学生や保護者、市民全体に部活動の地域展開がどのようなシステムであるのかが伝わってこない状況である。今後、本市においても市内の小学生から中学生、保護者に部活動には幅広い選択肢がある事、部活動のあり方をしっかりと理解してもらい、令和9年度からの休日の部活動がしっかりと地域に移行した体制で望めるよう、本市も他都市の事例なども情報に入れながらしっかりと取組まなければならない。

自由民主党浜松　B班視察　藤田典良報告書

視察日程　令和7年8月25日（月）、26日（火）
視 察 先　広島市：広島平和記念資料館
　　姫路市：姫路市役所

■視 察 日　令和7年8月25日（月）
■視 察 先　広島平和記念資料館（広島記念館：運営企画課長）
■視察項目　戦後80年の節目に学ぶ恒久平和の理念と地方自治体の平和行政

地方自治体としての平和事業の在り方、次世代への継承について。

1．視察概要



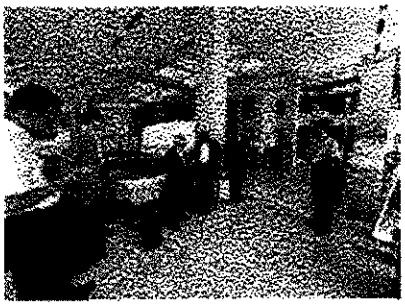
戦後80周年を迎えるにあたり、広島平和記念資料館を視察した。資料館は広島平和記念公園内に位置し、核兵器廃絶の推進・平和意識の醸成・被爆の実相の継承といった理念のもと、展示構成が設計されている。

資料館は、本館と東館の2棟から構成されており、本館は被爆者の遺品や写真・パネルによって、原爆の悲惨さを強くかつ直接的に伝える展示が中心であった。例えば、被爆当時に使用されていた三輪車の遺品や、放射線による後遺症を解説する資料などが展示されていた。

一方、東館では被爆前後の広島の歩みや復興、核兵器の危険性を広く訴える展示が行われている。パノラマ模型や資料での解説、オバマ元大統領の折り鶴展示など、国際的な視点も取り込まれていた。リニューアル以降は、グロテスクな展示を抑えつつも、CGやタッチパネルなどの直感的なデジタル技術を活用した表現が導入されており、視覚的理解を深める工夫が随所に見られる。

さらに、被爆者の証言ビデオやメッセージスペースが設けられ、記憶の継承が意識的に行われている点も印象的であった

2．展示内容と印象



展示は、亡くなられた方の気持ちや、そのご家族の思いが伝わる構成であり、被爆の悲惨さを「個人の人生」として実感できる内容であった。訪問当日は多くの外国人観光客で大変混雑していたが、会場は静寂に包まれており、平和の尊さが国際的に共有されていることを強く感じた。

また、展示を通じて「世界平和のために自分自身ができることは何か」を深く考えさせられた。現在もイスラエルとイラン、ロシアとウクライナなど世界各地で戦争が続いており、唯一の被爆国である我が国が果たすべき役割は小さくない。被爆の実相や核の恐ろしさ、戦争の悲惨さを、今後の日本を担う子どもたちに伝え続けていく必要性を改めて強く感じた。

3．今後への示唆



今回の視察を通じ、平和教育の継続と発展が重要であると痛感した。特に若い世代に対し、歴史の事実を正しく伝え、平和の尊さを自ら考える機会を設けることが求められる。

本市においても、戦争体験を伝える「語り部の会」の活動が継承の課題に直面している。さらに、浜松復興記念館についても、展示内容や展示方法の刷新が求められる時期に来ていると感じる。戦後の復興の歩みを伝えるだけでなく、戦争の悲惨さや平和の尊さを、若い世代や外国人市民にも共感をもって理解してもらえるよう、デジタル技術の活用や多言語対応、参加体験型の展示などを取り入れていくことが必要である。

地方自治体としては、平和事業を単発の行事にとどめず、施設の活用・教育カリキュラムとの連携・地域市民団体の活動支援を組み合わせ、次世代へ継承していく仕組みを構築することが重要であると感じた。広島の取組は、浜松の平和事業を進化させる上でも大きなヒントとなった。

【浜松の平和事業・継承へのヒント】

●デジタルアーカイブ化

体験談を映像・音声で保存し、学校授業や図書館、オンラインで活用。

●若者世代の参画

語り部活動に中高生・大学生を「サポーター」として巻き込み、世代間交流を通じて継承。

●国際的な視点の導入

市内の外国人住民や留学生と平和イベントを共催し、広島で見られたような「国際的な共感」を市民が体感できる場をつくる。

●教育カリキュラムへの位置づけ

「平和教育」を社会科・道徳・総合的な学習の時間と結びつけ、系統的に学べる仕組みを構築。

●市民参加型の平和事業

記念式典や講演会だけでなく、ワークショップ・アート・音楽など多様な表現で平和を考える活動を支援。



■視 察 日　令和７年８月２５日（月）
■視 察 先　視察先：姫路市駅前市役所（山陽百貨店西館３階）
■視察項目　駅ビルでの市民窓口について



1．視察概要

姫路市駅前市役所を視察し、駅前立地の市民窓口の役割や利便性について調査した。今回の視察は、浜松市における市民サービス向上施策の参考とすることを目的とした。特に、通勤・通学や買い物のついでに手続きが可能な利便性、休日・夜間対応などのサービス展開、市民窓口の効率的な運営方法に着目した。

2．施設・窓口の特徴

・JR姫路駅北駅前ビル「山陽百貨店」３階に設置され、駅直結でアクセスが非常に良い。
・住民票、印鑑登録証明書、戸籍謄本などの交付業務を中心に、パスポートセンターなども併設されている。
・平日夜間や土日祝日にも開庁し、仕事や学業で平日に来庁できない市民にも対応。
・デジタル機器や番号発券機を導入し、効率的な窓口運営を実現。
・多言語対応の案内も整備され、外国人市民にも利用しやすい体制となっている。

3．視察での所感

視察は17時を過ぎてから行ったが、窓口には手続きを行う市民の姿があり、夜間でも市民が利用できる利便性が実際に機能していることを確認できた。駅前立地で通勤・通学や買い物のついでに立ち寄れることが、若い世代や働く世代の利用を促していると感じられた。一方で、本庁舎や他の総合窓口との業務の重複や人員配置の効率化といった課題も想定される。

4．本市への示唆

駅周辺や主要商業施設への市民窓口設置は、通勤・通学や買い物など日常の動線に市役所機能を組み込むことで、利便性を高められる。

平日夜間や休日対応により、仕事や学業で平日に来庁できない世代へのサービス向上が期待できる。

デジタル化やマイナンバーカードの活用と組み合わせることで、本庁舎の混雑緩和と効率的な市民サービス提供が可能となる。

外国人市民への多言語対応や案内体制を整備することで、国際都市・浜松の特性を生かした市民サービスを提供できる。

浜松市においても、駅前市民窓口の導入は、市民が「用事があるから市役所に行く」のではなく、「生活動線の中で市役所サービスを利用できる」という発想への転換となり、今後の市民サービス向上のモデルとして検討に値する。

5．本市向け具体策

●駅前・商業施設型分散窓口の整備

浜松駅直結ビルや主要商業施設内に市民窓口を設置し、通勤・通学・買い物のついでに手続きが可能な環境を整備。

●開庁時間の柔軟化

平日夜間（～20時）・土日祝日開庁を基本とし、仕事や学業で来庁できない世代にも対応。

●デジタル窓口との連携

マイナンバーカード利用による証明書交付やオンライン申請のサポートを組み合わせ、効率的な市民サービスを実現。

●多言語対応・外国人市民サポート

案内掲示・タッチパネル・スタッフ対応の多言語化により、国際都市としての利便性を確保。

●本庁舎との業務分担と人員最適化

駅前窓口と本庁舎・区役所の業務を整理し、重複を避け効率的な人員配置を実現。

これらにより、浜松市では「市民の生活動線の中に行政サービスがある」状態を作り出し、市民満足度の向上と本庁舎の業務効率化を同時に実現できると考える。

■視 察 日　令和7年8月26日（火）

■視 察 先　視察先：姫路市役所（姫路市教育委員会事務局　学校教育部　健康教育課）

■視察項目　中学校部活動の地域展開『姫カツ』の取組及び進捗状況について

1．視察概要（視察時に確認した内容）

目的・理念：中学校部活動を単に地域に移行するのではなく、既存の形にとらわれず新たな形を創る「部活動観の大転換」を目指す。学校・教職員・保護者・地域すべてが多様な価値観や考え方に応えられる環境を整備し、誰もが無理なく持続できるスポーツ・文化・芸術活動を実現する。ただし、部活動の教育的意義はしっかり継承しつつ、社会全体の「部活動観」を変化させていくことを重視している。



2．姫カツの概要

（1）姫路市の推進計画について

・来年度9月から本格的な部活動展開を開始予定。

・改革実行期は令和8年9月～令和10年9月までと設定され、地域主体の運営移行や指導体制の整備を推進。

・既存の部活動の形にとらわれず、新たな形を創る「部活動観の大転換」を目指す。学校・教職員・保護者・地域すべてが多様な価値観や考え方に応えられる環境整備を重視。

（2）展開に向けた取り組み（姫カツ）

・運営体制

姫路市は、学校部活動の地域展開を円滑に進めるため、市直営として運営事務局を設置。教員である指導主事や行政職員など6名で構成され、会費の徴収や指導者謝金の支払いなどの運営事務を担当。将来的には、運営主体を地域の認定クラブに移行し、自治的に運営可能な体制を目指す。

・活動形態

平　　日：学校部活動として実施（部活動移行型）。

休　　日：姫カツクラブによる合同練習型。学校の枠を越えた交流や大会参加を実施。

大会出場：姫カツチームとして、地域クラブ単位で県大会等に参加。

（3）会費・費用負担

運営に関する会費は年会費3,000円、月謝3,000円（年間39,000円）で、活動に必要な個人の用具費や大会参加費などは別途。

費用負担軽減策として、中学校施設や備品の活用、困窮世帯への支援も検討。

（4）課題への対応

・参加者の移動・送迎負担の軽減ー活動場所や募集エリアの調整、多くの団体・指導者の参画。

・選択肢の多様性の確保ー「姫カツクラブ」と「姫カツ連携活動」の展開。

・指導者の質の保証ー団体・指導者の認定要件や研修制度を整備。

・学校教育活動の継承ー希望する教職員が兼職兼業で参画し、教育的意義を継承しつつ新たな価値を創出。

3．浜松市への示唆・課題認識



姫路市では、教育長が民間出身（元TBSアナウンサー）であり、市民への周知を重視。取り組みや仕組みをYouTube動画で公開するなど、広報戦略が先進的である。実証事業も令和5年から8例実施され、課題に対する修正を積み重ねている。浜松市においても実証事業を予定しているが、他都市の取組と比較すると遅れをとっており、危機感がある。

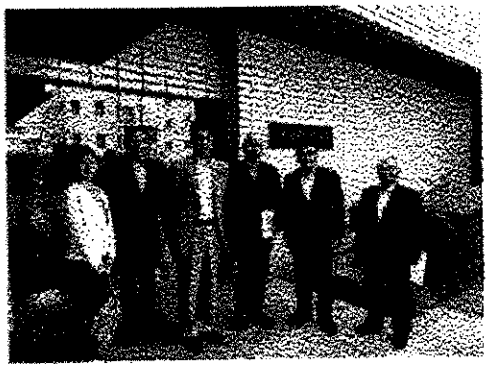
現在、浜松市では教育委員会指導課が兼務で対応しているため、専任チーム・部署を早急に設置し、本腰を入れた取り組みが必要。来年度からの地域展開に向け、ガイドライン案作成や市議会常任委員会での説明は進んでいるが、このペースでは実施は厳しい可能性がある。

4．所感・提言

姫路市の姫カツは、部活動の教育的意義を継承しつつ、地域と学校が連携して持続可能な運営体制を整備する先進的事例であり、浜松市においても参考になる。

課題としては、参加者や家庭の負担軽減、指導者の質の確保、学校・地域間の連携体制の構築などがあるが、具体的な解決策も示されている。

姫路市の思い『子どもたちの未来のために、「何ができるか」「何が残せるか」を考え、社会に新たな価値を創り出すためにも、一人でも多くの方々の理解と協力をいただき、一歩ずつ前進していきたい。』など、メッセージを発信していく必要があると感じた。



（様式６）

A0802

旅　費　支　払　証　明　書

出張年月日	令和７年　８　月２５日（月）～　８　月２７日（水）　２日間
出張先（目的）	A班　行政視察 北海道函館市　・　青森県三沢市　・　八戸市

出張者氏名 （8名）	太田　康隆	鳥井　徳孝	松本　康夫	平野　岳子
	井田　博康	鷲木里江子	神間　郁子	鈴木　裕之

旅　費　額　内　訳

項　目	金　額	備　考
交通費	485，600 円	新幹線・在来線チケット代，手配取扱手数料　8名分 8/15　東武トップツアーズ（株）支払
〃	8，960 円	8/25 現地交通費　①バス代　函館空港～函館駅　@700円 × 8名分 ②函館市電代　函館駅前～十字街駅　往復 @210円×8名分×2
〃	14，600 円	8/26 現地交通費 ③タクシー　三沢駅～三沢基地 @1,300円×2台分 ④バス代 三沢基地～八戸市八日町代 @1,500円× 8名分
視察費	8，000 円	8/27　⑤八戸美術館視察費　@1,000円 × 8名分
宿泊費	236，800 円	@14，800円 × 2泊 × 8名分
日　当	36，000 円	@ 1，500円 × 3日 × 8名分
合　計	789，960 円	

金　額		百	拾	万	千	百	拾	円
		¥	7	8	9	9	6	0

上記の金額を政務活動費として支払ったことを証明します。

令和７年　８　月２９日

代表者　会長　平野　岳子 [redacted]

〈詳細〉

・JR切符・手配手数料代　1件　【8/15支払　（東武トップツアーズ(株)）】

・①③④現地交通費、⑤視察費分　領収書別紙添付

AB No. 631609

TOBU TOP TOURS

[redacted]

領収証 RECEIPT

DATE 2025年07月11日

RECEIVED FROM 浜松市議会 自由民主党浜松 様

領収金額 THE SUM OF ¥485,600-

但し FOR ANA航空券、JR名古屋以遠・青森鉄道の旅代

上記金額正に領収致しました
The above sum has been duly received.

[redacted]

※クレジットカードによる領収(お支払い)の場合、印紙税法上の金銭又は有価証券の受取に該当しないため、収入印紙の貼付は不要となっています。

FORM OF PAYMENT	
現金 CASH	¥C
小切手 CHECK	
銀行振込 BANK REMITTANCE	
ギフト券 GIFT TICKET	
クレジットカード CREDIT CARD	

東武トップツアーズ株式会社
浜松支店
〒430-0944 浜松市中央[redacted]-3
出雲殿互助[redacted]6F
TEL050-9001-9699

令和7年8月5日

ご旅行代金内訳書

自由民主党浜松 様

行き先	函館・青森
出発日	令和7年8月25日（月）
帰着日	令和7年8月27日（水）
人数	8 名様

東武トップツアーズ株式会社
浜松支店
〒430-0944 浜松市中区田町３２４－３
出雲殿互助会田町ビル6階
TEL:050-9001-9699 / FAX:053-452-1832
担当：[redacted]

	項目		単価	数量	合計	摘要
1	8月25日	ANA4827	21,340	8	170,720	セントレア～函館
2		JR 特急券	2,860	8	22,880	浜松～名古屋
3		JR 乗車券	1,980	8	15,840	浜松～名古屋
4		JR 乗車券	180	8	1,440	名古屋～金山
5		名鉄 乗車券	910	8	7,280	金山～セントレア
6	8月26日	JR 乗車券	14,630	8	117,040	函館～浜松
7		JR 特急券	6,400	8	51,200	新函館北斗～八戸
8		青い森鉄道 乗車券	580	8	4,640	八戸～三沢
9	8月27日	JR 乗車券	190	8	1,520	本八戸～八戸
10		JR 特急券	6,800	8	54,400	八戸～東京
11		JR 特急券	3,730	8	29,840	東京～浜松
12	取扱手数料		1,100	8	8,800	
合計					485,600	

2025年09月15日
請求書番号 3411-616715-00

浜松市議会　自由民主党浜松　御中

(8321133)

東武トップツアーズ株式会社
登録番号/T4013201004027
浜松支店 [redacted]
〒430-09[redacted]
静岡県浜松市中区住吉3-3
田宮殿ビル8階
TEL：050-3011-3899　FAX：053-452-1852
支店長 [redacted] (3411)
担当者 (3411)
発行者 (3411)

請　求　書
INVOICE

毎度格別のお引立てを賜り厚くお礼申し上げます。下記の通り御請求申し上げます。

営業者印	検者印
[redacted]	[redacted]

浜松市議会　自由民主党浜松様
2025年08月25日　出発　8名様

代金合計	消費税区分による代金内訳				調整金	ご請求金額合計
	課税10%	¥485,600	内税額	¥44,145	¥0	¥485,600
¥485,600						
内消費税合計						
¥44,145						

お支払期限
2025年08月22日

摘　要	金　額(JPY)	税区分	ご利用日
ANA航空券	170,720	課税10%	2025/08/25
JRひかり５０１	22,880	課税10%	2025/08/25
JRはやぶさ２４	51,200	課税10%	2025/08/25
JRこだま７４１	29,840	課税10%	2025/08/27
はやぶさ２０	54,400	課税10%	2025/08/27
JR乗車券　浜松ー名古屋	15,840	課税10%	2025/08/25
JR乗車券　名古屋ー金山	1,440	課税10%	2025/08/25
JR乗車券　函館ー浜松	117,040	課税10%	2025/08/26
船車券　名古屋鉄道	7,280	課税10%	2025/08/25
船車券　青い森鉄道	4,640	課税10%	2025/08/26
JR乗車券　本八戸ー八戸	1,520	課税10%	2025/08/27
国内取扱料金　@1,100×8名	8,800	課税10%	2025/08/25
※※※　合　計　※※※	485,600		

1 / 1

＊お振込の場合は下記の口座にお振込み下さい。
口　座　みずほ銀行　浜松支店　普通　0557438　東武トップツアーズ㈱浜松支店

お支払いは 2025年08月22日 までにお願い申し上げます。
お振込手数料はご負担ください様お願い申し上げます。　お振込後受取書をもって当社の領収証に代えさせて頂きます。

【支出】

8/25 ⑦ 空港バス 700×8人=5,600
㊁ 市電 210×8×2往復=3,360
8/26 ㊂ TAXI 1,300×2台=2,600
㊃ 空港バス 1,500×8人=12,000
㊄ 8/27 八戸市美術館視察費 1,000×8人=8,000 計 31,560

⑦

領収証

浜松市議会自由民主党浜松 様

5600円

但し、連絡バス運賃として

令和 7年 8月25日

登録番号:T4440001001692
税率 10%

函館市日乃出町[redacted]
函館タクシー株式会社
函館帝産バス
TEL(0138)55-1[redacted]

㊂

領収書

2025年08月26日 -006
メーター運賃 ¥1,300円
運賃料金計 ¥1,300円
合計 ¥1,300円
(税率10%)
登録番号 T4420001011506
現金支払 ¥1,300円
車輌番号 006
毎度ご乗車ありがとうございます。
大空交通株式会社
青森県三沢市日の出
1丁目94-341
TEL (0176)51-[redacted]

㊂

領収書

2025年08月26日 -006
メーター運賃 ¥1,300円
合計 ¥1,300円
(税率10%)
登録番号 T2420001011506
現金支払 ¥1,300円
車輌番号 702
㈱三沢タクシー
0176-53-2155
フリーアクセス 0120-22-2155
携帯電話からもご利用出来ます。
ご乗車ありがとうございました。
お忘れ物はございませんか。
次回も是非ご利用お願い致します。

8/26
④ 宿泊バス代
③ 1500円 × 8名 = 12,000円

運賃収受証明書

④-1

裏面もご覧ください

○	八戸市内 ⇔ 三沢空港前	1,500円（小児・身障半額）
	八戸市内 ⇔ 三沢駅・市役所	1,350円（小児・身障半額）
	ハイテクパーク入口 ⇔ 三沢空港前	1,200円（小児・身障半額）
	三沢駅 ⇔ 三沢空港前	400円（小児・身障半額）
	三沢市役所 ⇔ 三沢空港前	250円（小児・身障半額）

上記金額をバス運賃として収受したことを証明します。

取扱者印 [redacted]

令和 7 年 8 月 26 日　　十和田観光電鉄株式会社

運賃収受証明書

④-5

裏面もご覧ください

○	八戸市内 ⇔ 三沢空港前	1,500円（小児・身障半額）
	八戸市内 ⇔ 三沢駅・市役所	1,350円（小児・身障半額）
	ハイテクパーク入口 ⇔ 三沢空港前	1,200円（小児・身障半額）
	三沢駅 ⇔ 三沢空港前	400円（小児・身障半額）
	三沢市役所 ⇔ 三沢空港前	250円（小児・身障半額）

上記金額をバス運賃として収受したことを証明します。

取扱者印 [redacted]

令和 7 年 8 月 26 日　　十和田観光電鉄株式会社

運賃収受証明書

④-3

裏面もご覧ください

○	八戸市内 ⇔ 三沢空港前	1,500円（小児・身障半額）
	八戸市内 ⇔ 三沢駅・市役所	1,350円（小児・身障半額）
	ハイテクパーク入口 ⇔ 三沢空港前	1,200円（小児・身障半額）
	三沢駅 ⇔ 三沢空港前	400円（小児・身障半額）
	三沢市役所 ⇔ 三沢空港前	250円（小児・身障半額）

上記金額をバス運賃として収受したことを証明します。

取扱者印 [redacted]

令和 7 年 8 月 26 日　　十和田観光電鉄株式会社

運賃収受証明書

④-6

裏面もご覧ください

○	八戸市内 ⇔ 三沢空港前	1,500円（小児・身障半額）
	八戸市内 ⇔ 三沢駅・市役所	1,350円（小児・身障半額）
	ハイテクパーク入口 ⇔ 三沢空港前	1,200円（小児・身障半額）
	三沢駅 ⇔ 三沢空港前	400円（小児・身障半額）
	三沢市役所 ⇔ 三沢空港前	250円（小児・身障半額）

上記金額をバス運賃として収受したことを証明します。

取扱者印 [redacted]

令和 7 年 8 月 26 日　　十和田観光電鉄株式会社

運賃収受証明書

④-4

裏面もご覧ください

○	八戸市内 ⇔ 三沢空港前	1,500円（小児・身障半額）
	八戸市内 ⇔ 三沢駅・市役所	1,350円（小児・身障半額）
	ハイテクパーク入口 ⇔ 三沢空港前	1,200円（小児・身障半額）
	三沢駅 ⇔ 三沢空港前	400円（小児・身障半額）
	三沢市役所 ⇔ 三沢空港前	250円（小児・身障半額）

上記金額をバス運賃として収受したことを証明します。

取扱者印 [redacted]

令和 7 年 8 月 26 日　　十和田観光電鉄株式会社

運賃収受証明書

④-7

裏面もご覧ください

○	八戸市内 ⇔ 三沢空港前	1,500円（小児・身障半額）
	八戸市内 ⇔ 三沢駅・市役所	1,350円（小児・身障半額）
	ハイテクパーク入口 ⇔ 三沢空港前	1,200円（小児・身障半額）
	三沢駅 ⇔ 三沢空港前	400円（小児・身障半額）
	三沢市役所 ⇔ 三沢空港前	250円（小児・身障半額）

上記金額をバス運賃として収受したことを証明します。

取扱者印 [redacted]

令和 7 年 8 月 26 日　　十和田観光電鉄株式会社

運賃収受証明書

④-2

裏面もご覧ください

○	八戸市内 ⇔ 三沢空港前	1,500円（小児・身障半額）
	八戸市内 ⇔ 三沢駅・市役所	1,350円（小児・身障半額）
	ハイテクパーク入口 ⇔ 三沢空港前	1,200円（小児・身障半額）
	三沢駅 ⇔ 三沢空港前	400円（小児・身障半額）
	三沢市役所 ⇔ 三沢空港前	250円（小児・身障半額）

上記金額をバス運賃として収受したことを証明します。

取扱者印 [redacted]

令和 7 年 8 月 26 日　　十和田観光電鉄株式会社

8/27分　視察費　8000円　⑤

⑤

八戸市美術館
Hachinohe Art Museum

株式会社金入（八戸市受託者）
〒031-0031
青森県八戸市大字番町10-4
TEL:0178-45-8338
登録番号:T2000020022039
端末番号:8B08

2025-08-27 11:43:00
端末取引ID:5920-0

領収証

浜松市議会

自由民主党浜松　様

領収金額

¥8,000-
(税 ¥727-)
(10%対象 ¥8,000-
内消費税 ¥727-)

但し 視察費代として

上記正に領収いたしました。

No.756262580060)1

①②(8/25) 8,960円
③④(8/26) 14,600円
⑤(8/27) 8000円
①～⑤ 計 31,560円

自由民主党浜松Ａ班視察日程表

8/1 現在

視察日程　令和７年８月２５日（月）～２７日（水）
視 察 先　北海道、青森県
視 察 者　太田康隆　鳥井徳孝　平野岳子　松本廣夫　井田博康　露木里江子　神間郁子
　　鈴木裕之

合計８人

8月25日（月）	【８：２０ 浜松駅新幹線改札前 集合】 （ひかり５０１・指） 浜松駅８：３１＝＝＝９：０１名古屋駅 （東海中央本線・中部国際空港行） 名古屋駅９：１６＝＝＝９：２０金山駅 （名鉄名古屋本線特急・中部国際空港行） 金山駅９：３５＝＝＝１０：０６中部国際空港駅 （全日本空輸） 中部国際空港駅１１：１５＝＝＝１２：４５函館空港 （函館空港連絡バス）　（徒歩３分） 函館空港１３：１０＝＝＝１３：３０函館駅―函館駅前駅 （函館市電２系統）　（徒歩３分） 函館駅前１４：３９＝＝＝１４：４５十字街駅＝＝＝函館市地域交流まちづくりセンター <函館市地域交流まちづくりセンター 視察>１５：００～１６：３０ **調査項目** ・まちづくりセンターの実態や課題について ・ （徒歩３分） 函館市まちづくりセンター― 十字街駅 （函館市電５系統）　（徒歩２分） 十字街駅１６：３４＝＝＝１６：４０函館駅前駅― ホテルへ 〈宿泊〉ホテルリソル函館 （住所：北海道函館市若松町６－３　TEL：0138-23-9269）	【函館市】 人口　234,659人 面積　677.87㎢ 〈会場〉函館市地域交流まちづくりセンター 住所　北海道函館市末広町４番19号 Tel　0138-22-9700 〈昼食〉函館駅近辺にて 担当：函館市議会事務局 三尾様 0138-21-3754 〈夕食〉１８：００～ 会場　いか太郎 朝市プレジデント店 住所　函館市若松町9-10 TEL　050-5600-1821

8月26日（火）	【9：15 ホテルロビー集合】 （徒歩5分） ホテル―函館市役所 <函館市役所都市計画 視察>9：30～10：30 調査項目 ・第二次都市計画道路の見直しの背景や現状と課題 ・将来的な函館のまちづくりについて （徒歩15分）　（函館本線・新函館北斗行） 函館市役所―函館駅11：15＝＝＝新函館北斗駅11：39 （函館本線・新函館北斗行） 新函館北斗駅12：48＝＝＝八戸駅14：15 （青い森鉄道・青森行）　（タクシー11分） 八戸駅14：35＝＝＝三沢駅14：54＝＝＝15：05三沢基地 <航空自衛隊 三沢基地 視察>15：30～17：00 調査項目 ・自衛隊の騒音対策等、地域との共生の実際について ・基地を活用したまちづくりについて （リムジンバス55分） 航空自衛隊 三沢基地前17：25＝＝＝18：20八戸八日町―ホテルへ （宿泊）ダイワロイネットホテル八戸 （住所：青森県八戸市八日町1-1　TEL：0178-73-2555）	〈会場〉函館市役所 住所　北海道函館市東雲町4-13 TEL　0138-21-3111 〈昼食〉八戸駅周辺にて 【三沢市】 人口　37,284人 面積　119.39㎢ 航空自衛隊 三沢基地 担当： 住所　青森県三沢市大字三沢字後久保125-7 TEL　0176-53-4121 浜松基地：[redacted] TEL　053-472-1111 〈夕食〉19：00～ 会場　酒と肴と男と女　海坊主 住所　八戸市六日町10 TEL　0178-24-5017
8月27日（水）	【9：20 ホテルロビー集合】 （徒歩3分） ホテル―9：23八戸市美術館 <八戸市美術館 視察>9：30～11：20 調査項目 ・美術館の建設経緯や事業運営の課題等について ・展覧会の工夫や学校連携の実際について （徒歩10分） 八戸市美術館11：20―11：30本八戸駅 （東八戸線・八戸行） 本八戸駅11：42＝＝＝11：51八戸駅 （東北新幹線はやぶさ20・東京行） 八戸駅13：07＝＝＝16：04東京駅 （こだま741・名古屋行） 東京駅16：27＝＝＝18：19浜松駅	【八戸市】 人口　219,733人 面積　305.56㎢ 〈会場〉八戸市美術館 住所　青森県八戸市大字番町10-4 TEL　0178-45-8338 担当：八戸市議会事務局 蛭子様 0178-43-9161 〈昼食〉八戸駅周辺にて

（様式８）

令和７年 ７月１６日

会派名　浜松市議会 自由民主党浜松
代表者　会 長　平野　岳子　様

会派名　浜松市議会自由民主党浜松
氏　名　視察Ａ班幹事　鈴木　裕之 [redacted]

出　張　届

下記により、政務活動のため、出張することになりましたので届け出ます。

記

１　出張者

太田　康隆 議員	鳥井　徳孝 議員	平野　岳子 議員
松本　康夫 議員	井田　博康 議員	露木里江子 議員
神間　郁子 議員	鈴木　裕之 議員	

（計８名）

２　期間及び出張先

令和 ７ 年 ８ 月２５日（月）～ ８ 月２７日（水）　３日間

北海道函館市　・　青森県三沢市　・　青森県八戸市

３　目的

函 館 市　：　8/25 函館市地域交流町づくりセンター 視察　実態や課題について

8/26　①第二次都市計画道路の見直しの背景や現状と課題について
②将来的な函館のまちづくりについて

三 沢 市　：　航空自衛隊三沢基地　①騒音対策、地域との共生の実際について
②基地を活用したまちづくりについて

八 戸 市　：　市美術館視察　①美術館の建設経緯や事業運営の課題等について
②展覧会の工夫や学校連携の実際について

視察依頼書送付願

令和 ７ 年 ７ 月16日

浜松市議会議長　高 林　修　様

[redacted]

会 派 名　浜松市議会 自由民主党浜松
代表者氏名　会長　平野　岳子 [redacted]

上記のとおり、所属議員が政務活動のため、出張することになりましたので、視察先あての視察依頼書の送付をお願いします。

（様式11）

A0802

令和７年８月２９日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和７年８月２５日(月) ～ ８月２７日(水)　３日間
出張先	函館市　・　三沢市　・　八戸市
出張の理由	会派行政視察（A班） 8/25 函館市　：　地域交流まちづくりセンター 視察 まちづくりセンターの実態や課題について 8/26 函館市　：　市役所都市計画課 ①第二次都市計画道路の見直しの背景や現状と課題 ②将来的な函館のまちづくりについて 三沢市　：　三沢基地視察 ①自衛隊の騒音対策等、地域との共生について ②基地を活用した街づくりについて 8/27 八戸市　：　八戸市美術館 視察 ①美術館の建設経緯や事業運営の課題について ②展覧会の工夫や学校連携について
出張者 氏名印	太田　康隆 [redacted]　鳥井　徳孝 [redacted]　平野　岳子 [redacted] 松本　康夫 [redacted]　井田　博康 [redacted]　露木里江子 [redacted] 神間　都子 [redacted]　鈴木　裕之 [redacted] （計８名）
（出張の顛末） 別紙　報告書の通り	
（備考）	

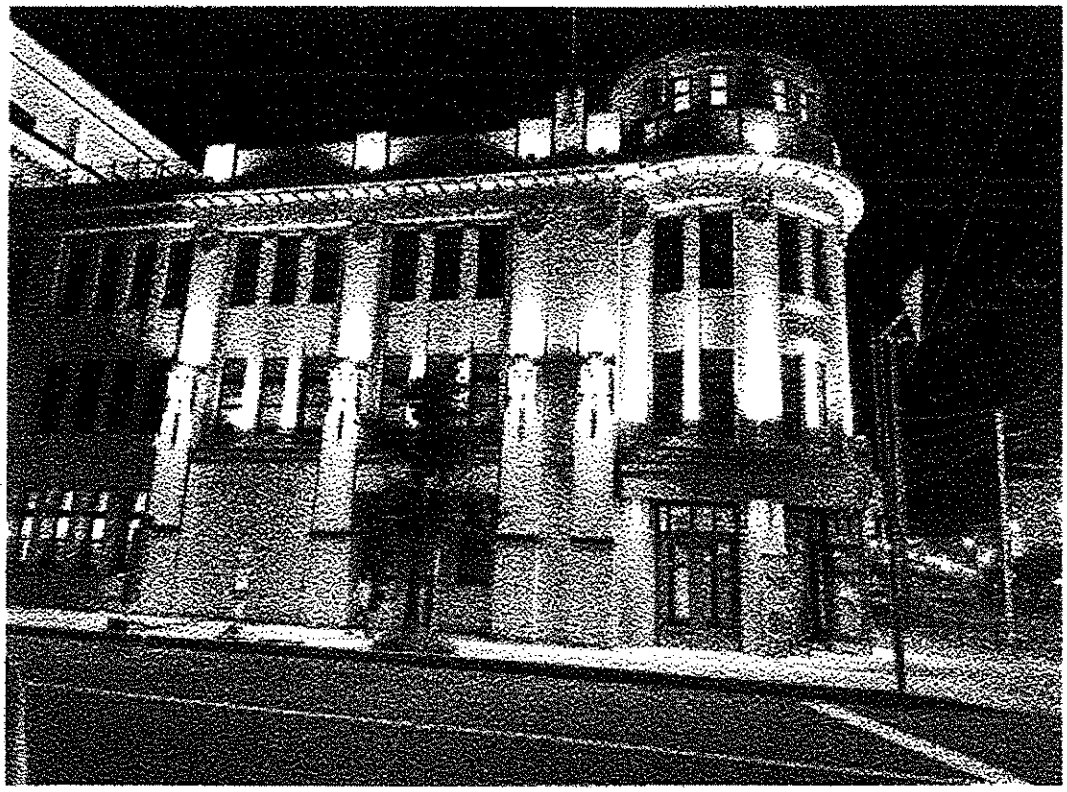
A班視察報告書

太田　康隆

【1】日時：令和7年8月25日
視 察 先：函館市地域交流まちづくりセンター
調査項目：まちづくりの実態や課題について
(説明)

函館市は 1859 年、横浜・長崎とともに日本で最初の国際貿易港として開港以来、外国文化に触れ、市民生活や文化にも影響を与えてきた。また北洋漁業の基地として、あるいは交通の要衝として発展、近年では函館空港や、新幹線と近接するなど、本州とは陸・海・空の交通網で結ばれ、南北海道の中心として発展している。平成 17 年には中核市に移行、人口は 1980 年の亀田市との合併時の 34 万 5 千人をピークに令和 7 年現在 23 万 2 千人と減少しているが、令和 4 年 8 月には函館駅に隣接してクルーズターミナルが完成するなど、インバウンドにも力を入れ国際観光都市としての発展を目指している。

函館市地域交流まちづくりセンターは大正 12 年(1923 年)に丸井今井百貨店函館支店として建築されたもの。昭和 5 年に 4 階部分を増築、隣接して 5 階建てが増築されたものを昭和 44 年に函館市が購入。市役所分庁舎として平成 14 年まで使用されていた。



平成 16 年に創建当時の３階建てを基本とし、増築された奥側の一部分だけを残す改修計画が景観審議会に諮問され、平成 17 年に改修工事が行われ現在の建物が完成した。

建物の外観は、洋風を基調とし電車通りに面した角を円形にして主玄関を配し、昭和５年の増築部分にある塔屋は残す特徴的なデザインとなっている。内装も百貨店当時は床が大理石貼り、玄関部分がモザイクタイル貼りであった。こうした意匠は、主玄関部分や階段回りなどで現在でも見ることができる。

またエレベーターは、扉の開閉及び運行を手動で行うもので、開設当初のものが現在も現役で使われていて、東北以北最古の貴重なものである。因みにメーカーとしても貴重で、月に２回のメンテナンスを行っているそうだ。

施設整備の事業費は 726 百万(内国庫補助 231 百万、残りを起債と一般財源)、延べ床面積 2808.17 ㎡。１階が情報発信、２階が市民交流、３階が市民活動支援の３つの機能を有する施設となっている。

運営は指定管理者制度で平成 27 年から運営しているが、平成７年度からは NPO 法人函館市青年サークル協議会が核となり、グループ「まちセン」を組織し、５年間の契約で受託している。[redacted]氏。開設時間は９：00～21：00

地域交流まちづくりセンターの主な業務は

① 設置目的に資する事業

・市民活動支援事業

・市民の社会参加促進事業

・移住者サポートセンター運営事業

・総合窓口の設置・運営に関すること

・施設及び設備の提供に関すること

② 施設の使用許可及び制限に関すること

③ センターの維持管理に関すること

・館内及び敷地内清掃

・電気保安点検

・施設、設備の修繕など

④ 自主事業として・喫茶店と福祉売店を運営

運営に関して常勤職員は７名、非常勤職員が５名の計 12 名体制。令和７年度から 11 年度(5 年分)の指定管理料は 322,405 千円。令和６年度までは利用料金制を採用していたが、令和７年度から使用料に変更されたとのこと。令和６年度の入館者数は年間で 105,543 人(月平均 8,795 人)。

(所感)

明治以降、国際貿易港として発展を遂げた函館は、昭和５年には 197 千人の人口を擁し漁業・貿易の黄金期を迎えた。しかし昭和９年の大火では町の三分の一が焼失、２千人を越える犠牲者を出した。当該建物も被災、焼失部分の改修や補強工事が施さ

れたとある。これらの明治・大正から続く建築物は港町の特性とあわせ函館の魅力的な景観形成に役立っている。

そうした歴史を持つこの建物が景観を維持しながら、「情報発信」「市民交流」「市民活動支援」の３つの機能を果たす現役公共施設として維持されていることに特別な意味を感ずる。

本市でも 1928 年建設の鴨江アートセンターは歴史的建造物が創造都市浜松の役割を担う文化施設として活用されており、一時、全面解体の方針から保存活用に転換されたことは類似性があり意義深い。

函館市は道路幅員が広く、路面電車が走っている。こうしたことが地域交流まちづくりセンターのある交差点周辺の景観を一層魅力的なものにしている。また、アクセスも十字街電停のすぐそばにあり申し分ない。

センターの機能面では、３階を１区画２ｍ×２ｍ、月額 3000 円で 10 の市民活動団体に賃貸していて、「はこだて音の視覚化研究会」などが借りていたが、年度更新の選考は厳しそうな印象を受けた。しかし、市民文化活動の視点では、どんな分野を支援していくかにメッセージを込められる余地があり面白い。

また、１階では、はこだて未来大学の共催によるフードロスのパネル展が行われていたが、パネルをシート様の薄い素材でボードに固定するなど、製作費の工夫が見られた。因みに共用部分の壁面のため使用料は取っていないとのこと。

昨年度まで利用料金制で運営されてきたが、料金収入が厳しく指定管理料での契約に変更されたと聞いた情報発信にせよ、市民活動支援にせよ、施設使用料の収入は知れている。市民活動も広義の文化と考えれば、そもそも文化とは、経済合理性の及ばないところにある。その意識で捉えないと、この分野の活動は支えられないと感じた。

【２】日時：令和７年８月２６日

視 察 先：函館市役所都市建設部都市計画課

調査項目：①第二次都市計画道路の見直しの背景や現状と課題

②将来的な函館のまちづくりについて

（説明）

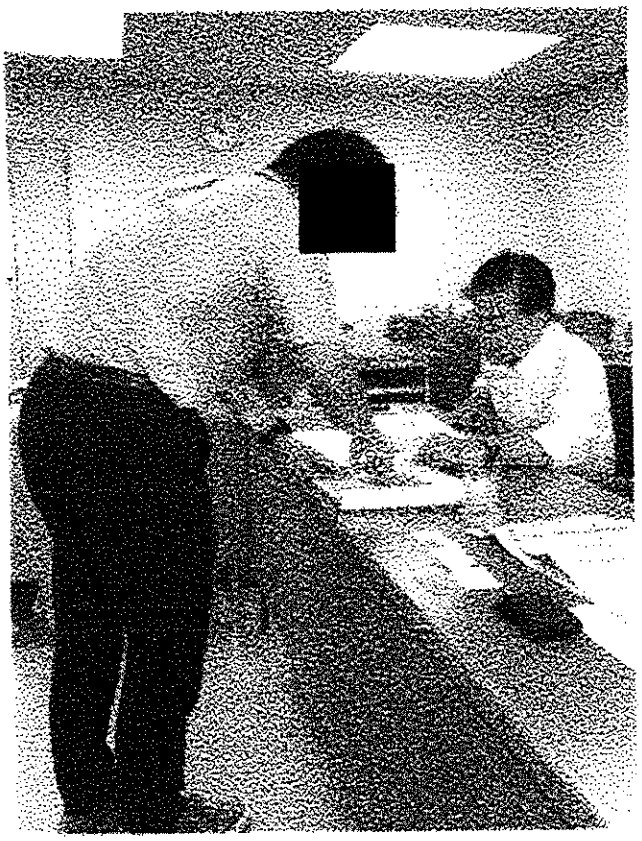
―経過― 函館市の都市計画道路は、昭和４年に北海道で初めてとなる 44 路線を決定して以来、函館大火や戦後からの復興、高度経済成長、市域の拡大などに併せて追加や変更を行ってきた。しかし、都市計画道路として決定後、30 年以上経過するも未着手の路線が数多く残っていた。このため、平成 21 年(2009 年)4 月に第１次となる「長期未着手都市計画道路の見直し方針」を策定し、12 路線(13 区間)について、都市計画決定の廃止や変更などの見直しを行ってきた。

しかし、方針の策定から 15 年が経過し、未着手期間 30 年の路線が新たに加わったこと、また「都市計画マスタープラン」の改訂や「立地適正化計画」の策定などの環境変化、さらには北海道庁における、「函館圏の都市交通マスタープラン」が令和４年

(2022年)3月に策定されたことなどを受けて、改めて長期的、総合的な視点で更なる見直す必要があるとの結論に至り、令和7年2月に「第2次長期未着手都市計画道路の見直し方針」が決定された。

―概要― 見直し方針の上位計画との整合を図った上での、基本コンセプトは「歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり～コンパクト・プラス・ネットワーク～」＝見直しフローは5段階、Step1＝見直し検討路線の抽出、Step2＝必要性の検証(道路密度・機能・道路の連続性や配置バランス)、Step3＝実現性の検証(整備した場合の環境への影響・機能を代替する路線の有無)、Step4＝見直し方針の検討(検討路線や区間の方向性を検討し存続・変更・廃止の3区分に仕分けする)、Step5＝道路網全体の検証、を経て方針原案を策定、パブコメの後、見直し方針を決定するというもの。

実際の見直しにあたり、高規格道路として新外環状線2路線7.11㎞、事業中の路線として放射2号線など4路線3.27㎞は見直しの対象外で、見直し対象路線は25路線22.19㎞。見直し方針の最終案は25路線について、5路線が廃止、2路線が幅員変更、18路線16.33㎞が存続となった。



当該方針において、「廃止」・「変更」とした路線(区間)については、住民・関係者への説明会を開催し、一定の同意が得られた場合は、都市計画法に基づく変更手続きを進めていく。もしも、理解が得られず、見直しが困難と判断した場合は、見直しの方向性を再検証するとしている。本方針において、「存続」とした路線(区間)については、社会情勢の変化など、必要に応じて適宜、見直しの方向性を検証し、個別に対応することとしている。

(所感)

可住地面積は浜松市の490㎢に対して函館市は122㎢と狭く、また政令市と中核市という権限の違いもあり、特に規模の比較は適切でないが、都市の発展してきた歴史や、現在持っているまちづくりのデザインや方針など考えさせられるところは多い。

都市計画道路に関する国の動きとして、平成12年の都市計画運用指針策定、平成14年の社会資本整備審議会の中間とりまとめ、平静14年の都市計画運用指針改定、

平成 19 年の社会資本整備審議会素案などがあるが、そこで示されている考えは要約すると 3 点　①都市の拡大を前提にしたこれまでの計画から、今後は、人口が減少する状況変化を踏まえ早期に道路網の見直しを行うこと。　②とは言うものの、長期間事業が行われていない施設の変更については、慎重に行われるべきであるので、変更理由は明らかにして行うこと。　③将来目指すべき都市像を考慮し、既存を含めた各路線の必要性、機能等の検証を行い、その位置づけの積極的な見直しを行うこと。こうした流れを受けて、12 市町村合併後の浜松市でも、平成 20 年に都市計画道路見直しガイドラインが策定された。

また、上位計画の都市計画マスタープランは平成 22 年に第 1 回が、令和 3 年に第 2 回目が策定されている。

平静 22 年 10 月の第 1 次都市計画道路見直し計画では、都市計画道路総延長 485.　kmの内、整備済み 264 km、整備中 59 km、未整備 162 kmであったが、この未整備区間 162 kmについて、計画整合など 3 段階にわたる検証を行い 9ｋｍについて廃止候補とした。

また、平成 24 年 12 月の第 2 次見直し計画では未整備区間 148 kmについて、計画整合、細部の道路機能の検証、配置・規模等の検証を行った結果、存続区間 67 km、廃止候補区間 81 km(内、保留区間 21 km)の結論を得た。計画に基づく第 2 次見直しは、平成 27・28 年に行われ、53 kmが廃止、残り 33 kmは廃止候補ではあるものの「手続き保留路線」となっている。

第 2 次見直し計画策定後の都市計画に影響する環境変化としては、　①平成 26 年 8 月施行の立地適正化計画(＝市町村が策定、改正都市再生特別措置法＝都市機能誘導・居住誘導区域の設定など)、

②令和 5 年 10 月施行の改正地域公共交通活性化再生法(地域公共交通利用増進実施計画策定により国が支援メニュー)

③令和 2 年の都市再生特別措置法の一部改正による防災での視点強化(＝災害ハザードエリアでの開発抑制・移転促進・立地適正化計画と防災との連携強化)などがある。

都市計画道路の根拠となっている「新都市計画法」は、1968(昭和 43 年)施行以来、規制と誘導を活用しながら、計画的なまちづくりに大きな役割を果たしてきた。しかし、その後の半世紀は経済の成長期から安定期、あるいは人口減少とダウンサイジングの時代、さらには自然災害の多発化など、取り巻く環境や外部因子は多様化し大きく変化してきている。

また、昭和30年代に始まったモータリゼーションは進化の一途を遂げたけれども、交通事故や交通渋滞など負に現象も多く現れている。

どのような都市を目指すのか、低密度化する市街地、業務拠点への都市機能の集約化、社会インフラの既存ストックの有効活用、都市空間としての道路活用、道路ネットワークの構築、交通機能や防災機能など道路機能の検証、連続性と配置バランス、機能の代替路線の有無の検証など検証の視点は複雑化・多様化している。

都市の歴史や特殊性にも配慮しながら慎重かつ丁寧な検討が必要であるとつくづく感じた。

【3】日時：令和7年8月26日
視察先：航空自衛隊三沢基地
調査項目：①自衛隊の騒音対策等、地域との共生の実際について
②基地を活用したまちづくりについて

(所感)

昭和17年に三沢海軍航空隊の飛行場として開設、昭和20年、米陸軍航空隊が移駐、飛行場として建設工事が始まった。昭和33年には航空自衛隊の北部方面隊司令部が発足し、基地の共同利用が始まった。昭和36年には北部航空警戒管制団が配属され米軍から航空管制権が引き継がれ、昭和53年には第3航空団が移駐、航空自衛隊唯一の日米共同使用作戦基地として現在に至っている。



三沢基地の面積は約1,600万㎡、66%を米軍が、2%を航空自衛隊が、残り32%は共同使用(三沢空港を含む)されている。3,000Mの滑走路は米軍・自衛隊・民間の三沢空港が共同利用。1日当たり羽田4往復、丘珠2往復などが運行されている。

基地主催の航空祭やアメリカンデー、また自治体主催の三沢まつりや防災訓練などでは、米軍・自衛隊・自治体の積極的な交流が観られると言う。また米軍基地には5000人以上が駐留していて、家族も基地内外で暮らしている。我々が訪れた夕方には、米軍基地から買い物に出かける家族も見られた。

また基地の入り口の大通りは、規模は小さいがアメリカンな雰囲気の建物が街並みを構成していた。その基地前通りを移動していて、米軍と共同利用されている三沢基地が、自治体と共生している様子と意気込みが感じられた。

騒音については、我々が基地内の航空機の説明を受けている間も、F－35Aが何度か離発着していたが、実戦部隊の戦闘機だけに、浜松基地のT－4とは比べものにならない程の騒音レベルであった。それが、三沢市の日常なのだろう。

昭和33年に北部航空方面隊司令部と米軍の共同利用が始まった後に生まれ育った

世代が、市民の大部分を占めるようになった現在、日常はごく自然に「それが三沢市なのだ」という認識に代わる。

【4】日時：令和7年8月27日
視察先：八戸市美術館
調査項目：①美術館の建設経緯や事業運営の課題等について
②展覧会の工夫や学校連携の実際について

(説明)

八戸市は人口約22万人、かつては南部藩で盛岡に次ぐ都市として発展したが、今では青森県で第二の規模の中核市である。日本有数の水揚げを誇る(全国14位)とともに、北東北第2位の工業都市(製造品出荷額5,232億円)でもある。また東北新幹線・JR八戸線、東北縦貫自動車道・三陸沿岸道路,フェリー航路、三沢空港など陸・海・空で結ばれ交通結節機能も充実している。

八戸市にはこれまで旧税務署を活用した美術館があったが、平成27年3月に「24万都市にふさわしい新美術館の建設を求める陳情書」が議会で採択され動きが始まった。前段として、八戸市では成22年頃から「アートのまちづくり」を展開していた。それはアートの視点で課題解決をしたり、アーティストと市民の共同創作活動を通じてキーマンを起点にコミュニティーに変化が現れ、造的なまちづくりに貢献するとの考え方。

実例として南郷ダンス映画や工場大煙突のライトアップなどがあるが、こうした「アートのまちづくり」の中核施設として美術館があった。さらに美術館の建物は昭和44年建設で、老朽化や展示空間の不足といった課題もあり、それも整備の理由であった。また、建設予定地の青森銀行や交番を移転し広場を確保するなど、建設について協調開発の話し合いが成立したのも特質すべきこと。

具体的には、2016(平成28)年9月に有識者会議・市民会議の議論を経て基本構想を策定。翌年には基本設計完了・管理運営基本計画策定に着手した。2019年には建物本体建設工事着手・中期運営計画策定、基本計画策定の5年後の2021(令和3)年11月にはリニューアルオープンした。

建築概要は建築面積約3,095㎡、延床4,881㎡、構造は鉄骨造、地上3階建て、本体工事費は約32億円。

八戸美術館のビジョンは、①アートのまちづくり②アートの学び③展示。調査研究・収集保存を担う美術館機能の3つの機能の融合

新美術館の特徴は　①ジャイアントルーム＝エントランスとしての機能のほか、人々が自由に集い、学び、活動する場を担う巨大な空間＝・企画展以外美術館の入場は無料・ジャイアントルームのフリースペースは自由に使える・ジャイアントルームやテラスは持ち込み飲食可能＝これまでも晩さん会や、バスケット大会などが開催された　②専門性の高い個室群をジャイアントルームの周りに配置　など。

ジャイアントルームの活用例として、賑わい創出事業で子供たちとのおもちゃフェ

スティバル、八戸エンブリ鑑賞、貸館事業として絵画教室・学会年次研修会・女性講座・小規模グループへのスペース貸などなど多様だ。

新美術館の 2 本の柱としては　①誰もが気楽にアートに触れられる機会を提供する「展覧会」と　②アートを介して出会いや学びを誘発する様々な「プロジェクト」がある。

主な取り組みとして　①学校連携事業＝小・中・高校の教員、美術館の学芸員、専門家が一体となって「学校連携プロジェクトチーム」をつくり、美術館を拠点に大きな絵プロジェクトや合同鑑賞会などの取組を行っている。また出張研修会や活動冊子の作成、大学・高専連携事業も行っている。②企画展　③巡回展　③コレクションラボ　④共催展示＝琴の演奏と展示、高校のイベントと書道展など

また、県内の他の４つの美術館＝青森公立大学国際芸術センター、青森県立美術館、十和田市現代美術館、弘前レンガ倉庫美術館との住み分けと連携にも注力している。

(所感)

八戸新美術館のすばらしさは、2016 年(平成 28 年)の基本構想のレベルの高さに尽きると感ずる。

新美術館の建設は、単体としての施設ではなく、中心市街地形成の一翼も担っていた。つまり、八戸市の中心街は新幹線や東北本線のある八戸駅周辺ではなく、JR 八戸線の本八戸駅南側の市役所や美術館のあるまさにこの地域なのだ。従って、中心市街地活性化の為にも、広場を持つ美術館をこの場所に再建設する必要があり、その為には、青森銀行や交番の移設を実現させてまで用地を確保する必要があったのだ。この、開発協議を実現させた関係者のエネルギーと理解も、八戸市の文化の質の高さを物語っていると考える。

また新美術館のコンセプトも、高く評価できる。

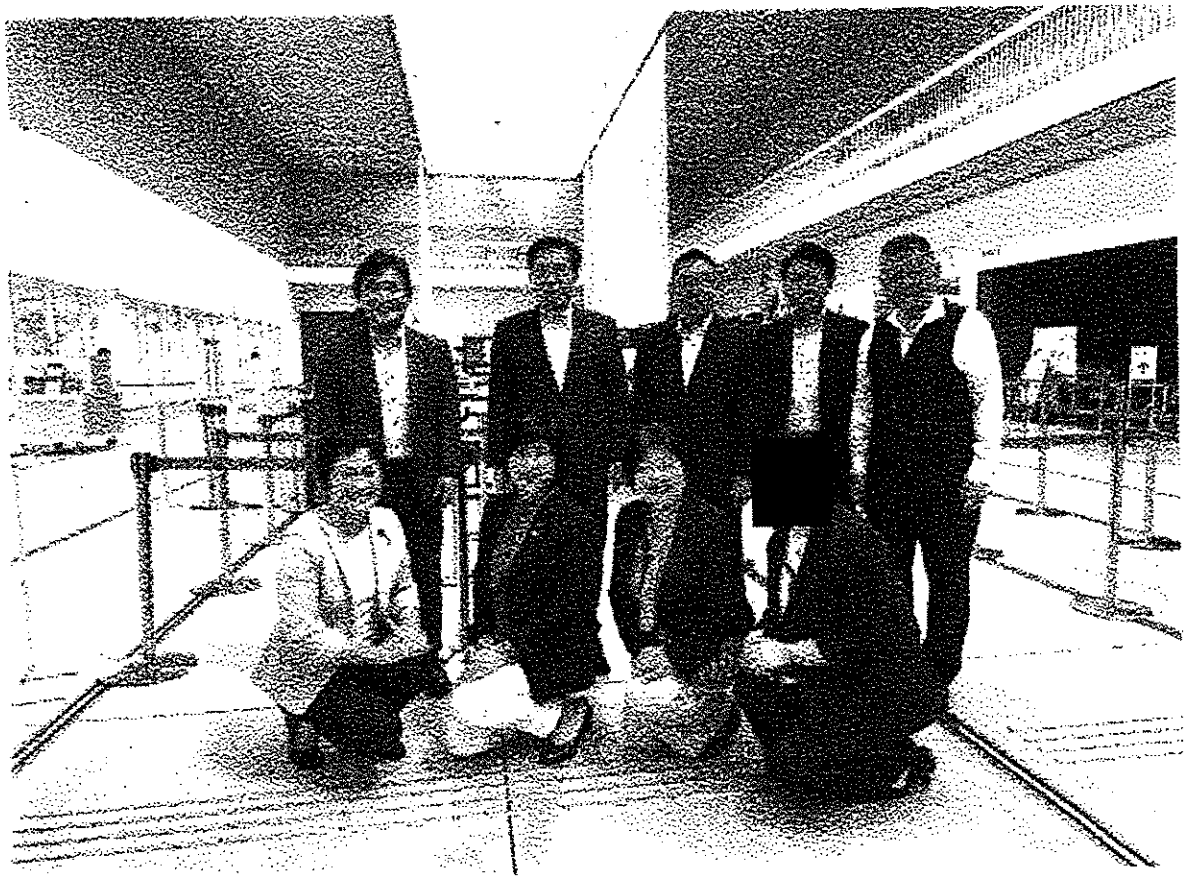
柱の一つは、「アートのまちづくり」として行動する美術館であることで、ジャイアントルームの存在や市民に開かれた活用法などは、青森県の４つある公立美術館とは明確に異なり、住み分けができている。つまり、差別化されており、存在価値が高いと言える。

それは外部委員を加えた基本構想策定段階での、議論の質の高さの結果だと考える。検討の結果、美術館を「第４世代の美術館」と位置付けることになる。

八戸市の資料にも「美術館はつくられた時代によって変化しています」とのコメントが記載され、磯崎新著「造物主議論」鹿島出版会が紹介されている。そこでは、第一世代の美術館を「18 世紀までの王侯貴族の私的コレクションの公開目的」とし、第二世代の美術館は「美術作品はその近代主義的視点によって、究極的に平面や立体に還元され、これが均質空間に浮遊する状態をイメージ」。第三世代の美術館は「生存している芸術家が自らの作品を自由に空間的に設置する、サイト・スペシフィックな作品」なのだとの解釈が示され、八戸市美術館は＝ものを展示する展示室だけでなく、ひとが活動し、ことやものを生みだす展示室(ジャイアントルーム)を持つ美術館、ひ

との活動も作品として展示される美術館＝第四世代の美術館であるとしている。

美術館建設には、地域性、規模感、時代背景、立地のロケーションなど基本構想段階での質の高い議論の必要性を痛切に感じた。八戸市の安易に進めないという民度も感じた。



鳥井　徳孝

函館市地域交流センター視察報告

本市の地域交流拠点づくりの参考とするため、函館市の「地域交流センター」を視察した。函館市における同施設は、地域住民・学生・観光客を含め、多様な主体が利用可能なオープンスペースとして整備されており、文化・学習・福祉の機能を兼ね備えている点が特徴である。

函館市の地域交流センターは、「地域の居場所」であると同時に「外から訪れる人を迎える窓口」として機能していた点が印象的であった。浜松市においても、市民が安心して集える場であると同時に、都市の魅力を発信する拠点として発展させる視点が必要であると感じた。地域住民同士のつながりを深めると同時に、交流を通じて新しい価値を創出することが、今後の地域活性化に不可欠であると再認識した。

函館市における都市計画道路見直しの概要

函館市では、長期間にわたり未着手の都市計画道路について、都市構造の変化や人口減少の進行を踏まえた見直し作業を進めている。計画決定から数十年経過したものの、交通需要の減少や地域ニーズの変化により整備効果が限定的となった路線を対象に検証していた。

「必要性・実現可能性・費用対効果・地域環境への影響」を総合評価し、廃止または縮小を含む柔軟な見直しを行う方針である。そこで住民説明会を重視し、計画廃止による土地利用の自由度向上や生活環境改善を地域住民に丁寧に説明している。

函館市の事例は、人口減少・財政縮小時代における「計画の取捨選択」モデルとして参考になると感じた。
浜松市においても、将来的に都市構造の再編や持続可能性を考慮すれば、未着手路線の一律的な温存ではなく、「優先度再評価」「廃止も含めた選択」が必要になるだろう。
特に、交通需要の減少や都市機能のコンパクト化が進む中で、函館市のように市民合意を得ながら勇気ある見直しを行う姿勢は、浜松市にとっても大きな示唆を与えている。

八戸市美術館 視察報告

八戸市美術館は、令和3年にリニューアルオープンした比較的新しい文化拠点である。施設のコンセプトは「ジャイアントルーム」と呼ばれる大空間を中心に据え、市民活動とアートを融合させる仕組みを有している。

従来型の「作品鑑賞」中心の美術館とは異なり、地域の人々が関わりながら「つくる・集う・発信する」場としての役割を重視している。展示室、ワークショップスペース、多目的ホールなどが一体的に配置され、開放的で自由度の高い利用が可能となっている。

専門職の学芸員は展覧会企画のみならず、市民活動の支援や地域アーティストとの協働も担っている。公募や市民参加型事業を積極的に導入し、**「まちに開かれた美術館」**を目指していることが特徴である。

運営財源は市の負担を基本としつつ、民間との連携による企画も展開されており、行政と市民、さらには民間が一体となった運営形態が確立されている。

八戸市美術館は、「美術館＝作品鑑賞の場」という従来型の枠を超え、市民とともに創造する文化拠点として機能している点が大きな特徴である。特に、巨大空間を市民活動やイベントに開放することにより、アートと生活が一体となる姿勢は、人口減少社会における文化施設の新しい方向性を示すものと評価できる。

一方、浜松市美術館は伝統ある施設としての価値を有し、地域の芸術文化を発信する力を備えているが、「参加・交流」の面では八戸市に比して弱さが認められる。今後、浜松市においても、市民が主体的に関与できる開かれた文化拠点づくりを進めることで、まちの文化的魅力を一層高めることが可能であると考える。